

集中治療部 (ICU)

1. 看護単位の概要

病床数 20床 (特定集中治療加算 1)

2. 病棟の特徴

SURGICAL-ICU、MEDICAL-ICU として機能しているセミクローズド ICU (麻酔科管理、心臓血管外科・肝胆膵移植外科・呼吸器外科管理) である。

<入室患者内訳>

- ・(生体及び脳死) 肝移植及び肺移植術、心臓外科手術 (新生児・小児・成人)、食道亜全摘術等の大手術後の患者、合併症などリスクの高い術後患者。
- ・呼吸不全、敗血症、多臓器不全などで病棟から入室する重症患者。
- ・多発外傷や重症熱傷、CPA 蘇生後等の重症救急患者。

集中治療とは、「生命の危機に瀕した重症患者を、24 時間を通じた濃密な観察のもとに、先進医療技術を駆使して集中的に治療する」こと。そして集中治療室 (ICU) とは、その集中治療のために濃密な診療体制とモニタリング用機器、また生命維持装置などの高度の診療機器を整備した診療空間のことを指す。(日本集中治療医学会 HP より <https://www.jsicm.org/public/intensivist.html>) 当院の集中治療部は特定集中治療加算 1 を有し、一般病棟では管理困難な重症度の高い患者の治療・看護にあたっている。

看護師は常時患者 2 名に対して 1 名以上を配置し、重症度の高い患者に対応できる人員配置になっている。入室患者の年齢も新生児から高齢者まで幅広く、内科系・外科系すべての診療科の患者に対応する。そのため集中治療部で働く看護師には、重症度の高い患者をケアするための知識、観察力、アセスメント能力、判断力など、高度な看護実践能力が求められる。また、集中治療部に入室する患者や家族の苦痛や精神的負担は計りしれず、看護師には鎮静により発語や動くことのできない患者の尊厳を守り、患者、家族への精神面へのケアも常に考えて行動する力が求められる。

チーム医療にも力を入れており、患者が生命の危機状態を安全に脱し、安定した状態で一般病棟に帰室出来ることを目標に、医師、臨床工学技士、リハビリテーション部、感染対策チーム、栄養サポートチームなど様々な職種・部門と密に連携を図り、高度な医療と看護を提供している。